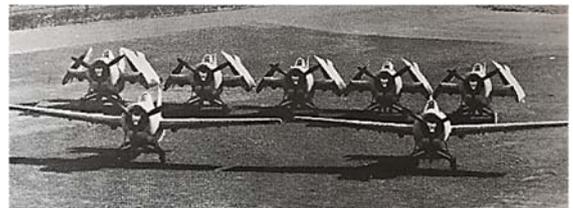


～F4F-4(FM-1)ワイルドキャット(Wildcat)艦上戦闘機



(F6F との比較)

出典：「Picture History of American Aircraft Production」Dover Publishing



本機は、1937年に原型が初飛行した、第二次世界大戦の米国海軍の戦闘機です。太平洋戦争緒戦において零戦の敵役でした。日本人の目から見ると、お世辞にもかっ

こいいとは言えない機体ですが、胴体に着陸装置を有し、タフな着艦にも耐える質実剛健な機体でした。サブタイプ-4、そしてそれをジェネラルモーターズが作った FM-1 の特徴は、折り畳み式主翼です。主桁に斜め後方に回動ヒンジを配置することで、その先の主翼を 90 度捻って胴体側面後方に折り畳める構造を有していました。これは実用的には大変優れた発明で、「five-into-two」のキャッチフレーズのように、幅方向において(主翼を折り畳まない)2機のスペースに(主翼を折り畳んだ)5機を収納でき、小型の護衛空母での運用を可能にしました。この発明は、同社の TBF アベンジャー攻撃機や F6F ヘルキャットにも採用されています。

【模型について】

ハセガワ(Hasegawa)の胴体に英国のエアフィックス社(Airfix)の翼を取り付けた 1/72 のキットです。どうしてもエアフィックスの胴体は太い気がして(私のイメージだとカワハギ(Thread-sail filefish)のようなイメージ)、2個イチで作り直しました。折り畳み状態と展開状態を選択して組み立てられる点でエアフィックスは素晴らしいため、これを活かしてネオジム磁石を使って、差し替え式で両状態を替えられるように組んでいます。(中川裕幸 2021年4月・改定2024年11月)